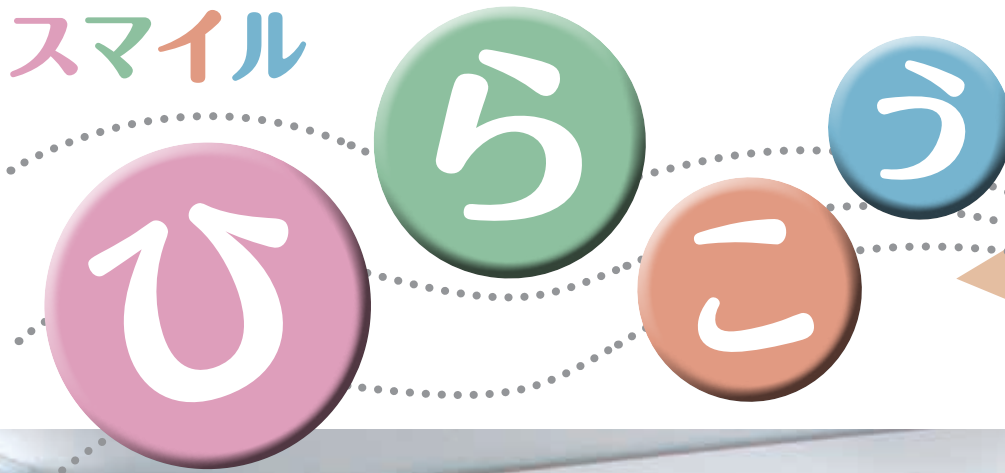


スマイル



特集

## NST症例検討会

新任医師紹介／連携医療機関紹介 vol.13／放射線技師から④／副院長のひとり言⑬／  
Information



外科部長 NST委員長 韓 秀炫

日頃、NST 活動にご協力いただき感謝しています。

院内における栄養療法の標準化や栄養不良患者の抽出、週1回行っているNST 検討会・回診により、これまで様々な症例に出会ってきましたが、まだまだ前途多難で、症例ごとに対応が必要である事を痛感しています。しかし、我々の活動により、早期の栄養療法による対応が患者様の退院や在宅に向けての支援に役立つものと思いい日々研鑽を積んできました。

今回、当院におけるNST 活動の一環として、NST メンバーにより、興味深い症例にそれぞれの職種がどのように関わり、どんな問題点があり、どんな対応をしたのか、また、ST による嚥下療法の実際や栄養士による半固形化栄養剤の使用など、最近の栄養療法の知見を交えて発表する機会を持ちました。



総合診療科部長 片岡 宏

今回は NST 参加者も含む多職種の関わりが患者さんの状態改善に寄与で

きた症例としてパーキンソンがベースにあった腸閉塞治療後の症例について発表させて頂きました。

症例は73歳の男性で、結腸過長症とパーキンソンに起因すると思われる腸管運動低下から腸閉塞を来され、手術加療歴がありました。再度イレウス症状あり当院に救急受診、手術の適応も考慮し他院での加療となりました。イレウス自体は保存的治療で軽快退院し当院へ再入院となりましたが、他院での加療期間中、約10日間の絶食とベッド上安静で活動性が低下し、誤嚥性肺炎も含めた継続加療が必要となりました。数年来のパーキンソン罹患による身体機能低下、嚥下障害、腸管運動低下による消化管逆流などが当院で対処すべき課題となりました。運動療法、嚥下訓練、投薬調節、経腸栄養剤の工夫などを多職種がNSTの定期会合を通じて立案、実施することで一定の改善が得られました。具体的対処については各職種の担当者から詳述頂きますが、複合要因が絡んだ高齢者の加療方法を示唆する一例と考えます。



病棟看護師 秋澤 美和

今回のNST発表ではパーキンソン病による嚥下障害、腸管麻痺のある症例での検討を行いました。入院当初は嚥下状態が悪く、絶食となりました。経鼻胃管チューブからの注入食が開始されましたが、入院となる半月前までは自宅で経口摂取されていた方で、患

者、家族共に経口で栄養が取れるようになることを強く望んでおり、胃瘻造設は希望されていませんでした。受け持ち看護師が中心となり、患者家族の経口からの栄養摂取に関する思いを傾聴し、言語療法士と協力し家族も一緒に行えるリハビリメニュー、記録表を作成しました。それをもとに家族にも参加して貰い、休日もリハビリが継続して行え、日々のリハビリ状況、嚥下状態をスタッフ間で共有できるよう介入していきました。また嚥下状態や全身状態を観察し、NSTメンバーと情報共有することで患者に適した注入食の調整、注入時間の調整を行っていきました。

病棟看護師は他の医療職種メンバーよりも入院患者と過ごす機会を長く持っています。そのため栄養状態、嚥下状態、全身状態を継続的に把握出来る立場にいます。今後も患者と関わり得た情報を活かし、スタッフ1人1人が意識を持ってNSTメンバーと連携を取りながら栄養状態改善へ向けたサポートを行っていききたいと思います。



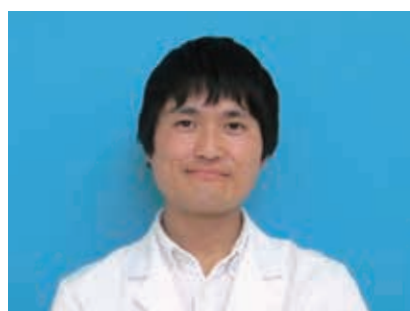
病棟看護師 佐々木 良枝

今回のNST発表会では、症例検討からNSTリンクナースとして求められることについて発表しました。当初担当病棟では、看護師でできること、情報共有と日々の観察、食事形態の工夫をしていましたが、栄養状態は改善されないため病棟担当栄養士が介入し補食や摂取カロリーの相談をしまし

た。その後も栄養状態は改善されないため主治医に点滴や経口栄養剤などの検討を依頼していました。入院より約1か月後、主治医よりNSTへ対診依頼がありました。NST介入後、栄養剤の変更や注入時間の変更をし、栄養状態は改善しました。

患者個人にあった栄養療法、点滴、栄養剤の選択を正しく扱えるよう指導を行う必要があります。

NSTリンクナースは病棟看護師へ橋渡しも担っているため、NSTチームと病棟の関係性の維持や情報共有を行う必要があります。



薬剤科 辻 是道

今回の症例は食欲不振でNST介入となった患者さんでした。介入時は腸管の運動が悪く、大腸にガスが大量に貯留している状態でした。そのことが食欲不振の原因と考えられたため腸管

運動を促進する薬剤が4種類開始となりました。便を緩めにコントロールしながら、栄養剤の注入速度の調整を行うことで最終的には1食ではあるが、全粥ミキサー食を全量摂食できる状態まで改善し転院となりました。

今回に限らずNST依頼理由の大半は食欲不振ですが、理由は様々です。消化管トラブル（ガス貯留・消化管潰瘍）、薬剤の影響（嘔気・味覚障害）、口腔内トラブル（口内炎・義歯）、発熱、心因性、嗜好、味付けなどから問題点を見つけ出すことになります。多部署で介入することで違った視点から問題点・解決策を提案し、より適切な治療の手助けができるように頑張っていきます。



栄養科 奥 和晃

当院では昨年より粘度可変型栄養剤ハイネイゲルを使用しています。こ



の栄養剤は使用前の形状は液体で胃酸と反応することで凝固し、胃食道逆流に有用とされています。今回 NST が介入し、ハイネーゲルの使用が有効であった症例を経験したのでご紹介します。

今回の症例では当初、液体の消化態栄養剤を使用していたのですが、注入速度を上げると胃食道逆流が認められました。その為、栄養量の充足には低速での投与を余儀なくされ、長時間拘束されることによる患者さんの苦痛が見受けられました。そこで胃食道逆流対策、注入時間の短縮の目的でハイネーゲルに変更を行いました。その後胃食道逆流は認めず、経管栄養からの投与エネルギーの増量と注入時間短縮、経口摂取では摂食嚥下訓練が進み、ミキサー食まで摂取が可能となりました。QOL の向上により患者さん、御家族に喜んで頂けた症例でした。



言語聴覚士 吉本 紘子

イレウス術後に嚥下障害を呈した症例の嚥下訓練について報告しました。本症例は既往にパーキンソン病がありましたが、イレウスで入院するまでは普通食を摂取されていました。嚥下障害としては、嚥下反射惹起遅延、嚥下筋、咀嚼筋の筋力低下、咳嗽力の低下を認めておりました。嚥下内視鏡検査においても、水分、ゼリーともに誤嚥を認めました。注入食の段階的な UP と平行して、言語聴覚士は嚥下筋の筋

力増強を図るための訓練と経口訓練を中心に行い、理学療法士は基本動作の獲得に加えて、咳嗽力の改善と頸部の筋力増強を行いました。本患者は訓練に対して意欲的であり、経口摂取にも意欲が高く、訓練にも積極的に取り組みられました。ゼリーの摂取でも誤嚥がありました。段階的に食事回数と食事形態を UP していくことができ、1食は経口摂取で補える程となり、リハビリ目的で転院となりました。

リハビリでは、ST だけではなく PT による嚥下筋や呼吸筋へのアプローチが行われたこと、NST の介入により必要な時期に必要な栄養が確保できました。多職種介入により、摂食嚥下機能が改善し、経口摂取確立に繋げていくことができたと考えます。

## 新任医師紹介



消化器内科

池田 亜希

4月から枚方公済病院消化器内科に赴任いたしました。昨年まで京都大学大学院に在籍しており、その間、当院で非常勤で上下部内視鏡検査を担当させていただいておりました。これまで、消化管出血や胆管結石などの急性期の疾患から、慢性肝炎などの慢性期疾患、消化器癌の化学療法ま

で、幅広く診療をおこなって参りました。患者さんの訴えをよく聞き、患者さんに寄り添った診療をと考えております。そのため、日々の診療において、地域の先生方との連携が非常に重要だと感じておりますので、何かとお世話になるかと存じますが、どうぞよろしくお願いたします。



歯科口腔外科

上田 優貴子

はじめまして。2016年4月に着任しました歯科口腔外科の上田優貴子です。愛知学院大学を卒業し、京都大学医学部附属病院で研修後、そのまま歯科口腔外科に入局して現在に至ります。以前は尼崎総合医療センターに勤務しておりました。口腔外科分野が専門ですが、障害者や有病者、治療困難な小児などの歯科治療も担当してきま

したので、何かお困りの事がございましたら気軽にお声がけして頂ければと思います。大阪府出身ですが、こちらの近辺は詳しくありませんので、地元の先生方に色々とお教え頂きながら（食べることが好きなので美味しいお店なども…）、早く当院や地域医療に貢献出来るように努めて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

# かいとクリニック

## ☑ 開業のきっかけ

大学の胸部外科に13年、その後、星ヶ丘厚生年金病院(現 星ヶ丘医療センター)の呼吸器外科に13年、胸部の外科に従事し気が付けば52歳。その後のことを考え、思い切って平成13年10月開業しました。胸部の外科という領域を越え、様々な症例に日々奮闘しております。

## ☑ 毎日の診療に心がけていること

情報収集に努め、自分で診れる範囲とそうでない範囲を的確に判断し、患者さんにとって最善の治療を提供できる様に心がけています。

## ☑ 趣味

ゴルフと読書。ゴルフは休日しか出来ないの、中々思うようにいきません。読書はあれも読みたいこれも読みたいといろいろな本を買ってくるのですが、時間がとれず積み重ねるばかり…いい速読法があればご一報お願いします。

## ☑ 枚方公済病院について

いつもご指導いただきありがとうございます。救急医療の充実に努力いただき大変ありがたく思っています。夜診の終わり頃や、病院の閉まっている土曜日になぜか緊急入院を要する患者さんが来られることが多く、困ったときに快く引き受けてくださり患者さんも私も大変助かっております。患者さんに公済病院を紹介するときは「私があなたと同じ病気になったら診てもらいたいと思っている病院です。」と言って紹介状を書いています。いつも勉強会をいろいろ企画していただいで感謝しております。



かいとクリニック 院長 垣内 成泰先生

所在地: 〒573-0126  
大阪府枚方市津田西町 3-17-3  
☎ 072-897-1001  
診療科目: 内科、呼吸器科、循環器科

# 連携医療機関紹介



このコーナーでは連携医の先生方をご紹介します。

## 三戸内科医院

## ☑ 開業のきっかけ

当院は父が昭和45年に開設しました。その父が病気を患ったため平成10年から外来を私が行うようになり、平成17年からは開設者を継承しました。はっきりいつからかは覚えがありませんが子供のころから医院をいつかは継いでいく気持ちはありました。

## ☑ 毎日の診療に心がけていること

まずは自分が心身ともに元気であることです。いろいろなことに興味や好奇心を持ち続けることも大切だと思っています。「先生、元気そうでええな。なんかやってるの?」と言われてもらうことは生活習慣病の患者さんに食事や運動に関しての興味や関心を持ってもらうのにはいい話題提供のきっかけになると信じています。

## ☑ 趣味

音楽、写真、映画も好きです。スポーツは自転車で基礎体力を維持しゴルフなどに活かすことができればと思って取り組んでいます。

## ☑ 枚方公済病院について

もう、随分と時間が経ちましたがとても少ないスタッフで24時間、365日の循環器救急を始められたころからドクターだけでなく連携室のスタッフの皆さんとともに勉強会を開催されたり、わざわざ診療所まで出向かれて病診連携を深める取り組みを地道に続けてこられた姿を拝見し「なんとパワフルで頼れる人たち!!」という印象が染みついています。いつも本当にお世話になっています。



三戸内科医院 院長 三戸 隆先生

所在地: 〒573-1111  
大阪府枚方市楠葉朝日 2-13-8  
☎ 072-857-6968  
診療科目: 内科、循環器科

## 核医学検査 (RI 検査に) について

当院では、RI 検査を昭和 62 年より開始し、枚方市では一番最初に RI 検査が導入されました。現在は、SPECT 機能付きデジタルガンマカメラで検査を行っています。

RI 検査は、 $\gamma$ 線を放出する放射性同位元素 (RI) を含んだ薬を注射などにより、体内に投与し、病変部や臓器に取り込まれた RI から出される  $\gamma$ 線の分布を、ガンマカメラで撮影し、外からは見えない体内の病気を診断します。

検査の種類は、約 6 割が心臓の心筋の血流検査、約 2 割が全身の骨の疾患の検査、約 1 割が脳の血流検査を行っています。最も多く行っている検査は、循環器領域の心筋血流検査です。心臓の RI 検査で得られる情報には、心筋の虚血の診断、PCI や薬物治療などの治療効果判定、重症度の層別化や予後の判定に大変役立っています。また、非侵襲的で、造影剤も使用しないので、腎機能の悪い患者さんに対しても安全に検査可能であることが特徴です。

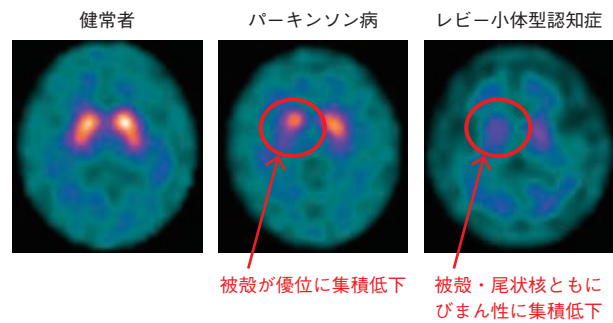
長い間、検査の種類に変化がありませんでしたが、最近のトピックスとして、新しく出きた検査を紹介します。

### ドパミントランスポーターシンチ (DAT シンチ)

DAT シンチでは、脳内の黒質から線条体に向かうドパミン神経に存在するドパミントランスポーターを画像

化し、ドパミン神経の変性や脱落の程度を評価します。パーキンソン病 (症候群) やレビー小体型認知症ではドパミン神経が変性、脱落し薬の集積が低下します。CT、MRI などではわからなかったドパミン神経の脱落や変性の程度を評価することでパーキンソン病 (症候群) やレビー小体型認知症の早期の診断や鑑別診断が可能です。

以上、当院の放射線科も地域医療のお役に立つよう業務にあたって参りますので、よろしくお願いします。



診療放射線技師  
岩木 慎治

## Information

### ● エコ除草始めました。

6月1日よりヒツジによる「エコ除草」を始めました！  
エコ除草は、ヤギ・ヒツジを住み込みで雇い入れ、除草してもらう事業です。

当院に来てくれたのは

<モカサ> 顔の白い方    メス    H27.1.17 生まれ (非常勤)

<ダ ル> 顔の黒い方    オス    H27.2.18 生まれ (非常勤)





枚方公済病院 副院長  
田中 満

鬱陶しい梅雨が終わりいよいよ本格的な夏の到来です。熊本大地震で被災された方は不十分な住環境でこの暑さを乗り切らねばならず、そのご苦労を思うと胸が痛みます。一日も早く暑さをしのいで快適に過ごせるよう心からお祈りいたします。話を夏に戻しますが、夏は暑さとともに日差しが強くなる季節でもあります。最近では日差しや紫外線は皮膚がんの原因になるとか、ご婦人の間ではシミの原因になると言われ世間から悪者扱いされています。その結果、いまや外出時に日焼け止めを塗る園児や小学生も珍しくない状況になっています。このことに関連して子供のビタミンD不足が問題になっています。日本では栄養状態が良くなっているにもかかわらず、子供のクル病が増加しているそうです。実際に最近の小児専門病院では、特に珍しい病気ではなくなっているようです。ビタミンD不足の原因の一つは食物アレルギーです。ビタミンDの豊富な牛乳や卵アレルギーの子供さんが増え、十分にビタミンDを摂取できないからです。そうになると決め手は日光を浴びることです。小生が子供の頃は毎日プールへ行き友達もみな真っ黒に日焼けしていました。過度の紫外線は有害ですが、意識的に日光を浴びようお勧めします。もちろん外出時は帽子をかぶるなど熱中症対策も必要です。皆さん今年の夏は健康的な小麦色を目指してみてもはいかがでしょうか。

理念と基本方針

理念  
医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

- 6月4日 河北循環器呼吸ケア研究会
- 6月11日 枚方消化器疾患談話会
- 6月18日 総合診療とERを考える会
- 6月24日 救急懇話会
- 6月25日 北河内病診連携懇談会



枚方消化器疾患談話会

## 編集後記

4月より社会福祉士としてCCUカンファレンスに参加することになりました。カンファレンスでは、病態管理をする医師、状態を把握している看護師、必要量や摂取量を評価し食事を調整する管理栄養士、薬の副作用・薬効・点滴などの管理をする薬剤師などの各専門スタッフがそれぞれの知識や技術を出し合い、最良の治療が行なわれていました。

「消化の良い良質のたんぱく質を…」などと私も栄養指導をしていた頃がありましたが、血中濃度から点滴の種類や経鼻栄養の速度までアドバースするなど考えたこともありませんでした。

地域医療連携室も、年々業務の範囲が広がり、別の役割でチーム医療の一員となれたことをうれしく感じています。人は口から食べ物をとってそれを栄養として生きています。しかし、その当たり前のことがなんらかの原因で出来ない患者さんが多く入院しています。相談業務でも、QOLを考えた支援をしていきたいと思っています。

退院支援室 丹羽 郁子



国家公務員共済組合連合会  
**枚方公済病院**

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号  
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093  
<http://kkh-hirakoh.org/>